令和8年度　生駒市行政改革推進委員会　第1部会　会議録

開催日時　令和8年5月20日(水)　14時～15時50分
開催場所　生駒市役所　401･402会議室

出席者
（委　員）城戸副委員長、清水委員、松山委員、平山委員
（事務局）牧井企画政策課長、粉家企画政策課課長補佐、白川企画政策課企画係長
　　北廣企画政策課企画係係員、太田企画政策課企画係係員
（担当課）金子障がい福祉課長、古田こども政策課長、若狭こども政策課課長
　　西スポーツ振興課長、大畑スポーツ振興課課長補佐
　　澤辺幼保こども園課課長補佐、澤野幼保こども園課保育幼稚園係長
　　駒井幼保こども園課保育幼稚園係係員
（傍聴者）1名

欠席者
　なし

1　開会
（事務局）【挨拶】

2　部会長の選任
（部会長を互選）

3　案件
　令和7年度アクションプランの各事業の評価について
（部会長）各事業の行政改革大綱に係る事業評価を行っていく。評価内容については昨年度の取組の進捗を総合評価として、根拠、理由とともに A から E の5段階で評価し、担当課の自己評価における今後の取組方針の妥当性についても評価を行う。その後令和7年度アクションプラン事業評価シート最下部にある行政改革推進委員会の評価項目を作成する。

「障がい者が安心して過ごせる居場所の確保・充実(地域活動支援センター事業の充実)事業」

について

（委　員）地域活動支援センターの設置に至っておらず、実績値も出ていない。センターの設置は既存の場所を用いるのか。それとも新たに設置を考えているのか。

（担当課）新規設置に加えて既存のセンターの拡充を目指し協議を行ったが、事業所の人員体制の課題等もあり、思い通りに進まなかった。

（委　員）令和8年度分の予算が計上されていないのはなぜか。

（担当課）事業所の人員体制の課題や、需要なども変化していることから、令和8年度は新規設置分の予算の計上を見送った。

（委　員）行革評価の部分でデジタル・データ活用の部分の評価がされていない。活動自体にデータの活用はされなかったとしても、事業を進めていく中では意見聴取など活用できる部分があるのではないか。実際の活動だけでなく、事業全体でのデジタル・データ活用として評価をしてほしい。

（担当課）意見を踏まえて検討する。

（委　員）総合評価が C とされているが、基本的に何も進んでいないが C でいいのか。一定の成果が得られたという評価が C 評価なので、もう少し厳しい評価、もしくは評価なしとなるのではないかと思うが担当課としてはどうか。

（担当課）指摘の通り事業が進捗していない状況なので厳しい評価になるかと思う。ただ事業実施に向けて事業所と協議等行ってきたことから C 評価とした。

「ファミリー・サポート利用料助成事業と人員体制の強化事業」について

（委　員）この事業もデジタル・データ活用の行革評価がされていない。事業の内容に活用するということだけではなく運営していく中でも、例えば周知活動にデジタルが使われているなど、そこの部分で評価していただきたい。

（担当課）事業に対してデジタル活用ができたかという部分で活用する場面がないという評価をしていた。今回いただいた意見を基にして評価したい。

（委　員）利用の申請は年に一度必要なのか。それとも一度の申請でずっと使えるのか。

（担当課）一度の申請で継続して利用できる。

（委　員）KPI の 2,298 という目標値はどのようにして算出しているのか。

（担当課）子ども・子育て支援事業計画で数値の出し方、過去の利用実績をもとに見込み量を算出する計算式が決まっており、それに合わせて算出している。

（委　員）実績値はどのように出されているのか。

（担当課）1回の利用で1と数えている。事業評価シートの数値は1月末の数字で、3月末では 2,569 回となっている。

（委　員）年度によって全体の分母となる数字が変わってくる。登録している人が多くいると全体的に利用者数も多くなる。割合で出した方がわかりやすいのでは。

（担当課）現段階では事業計画で出ている数字を用いており、見込み量に対して評価を行っ

ている。

（委　員）PDCA を行うなら決まった数字で進めていくよりも年度によって柔軟に変えていけるようにするべき。あくまでも KPI は最終目標に対しての中間点。

（委　員）目標値の設定について、計画を立てたときに将来を見込んで数値を設定していると思うが、目標値をかなり上回ってきている。にもかかわらず総合評価は C 評価ということで、数値の設定については見直していいのでは。

（担当課）毎日利用される方や、一日に複数回利用される方がいると、その方の利用回数だけで年間何百回という数字になる。その方が引っ越しされると、何百回分の利用実績が減るなど、ヘビーユーザーの存在が数値の大きな要素になってしまっている部分もある。どのような数値の設定がよいか検討する。

（委　員）どの市町村でも言われているが、利用したい人は多いもののサポーターとして登録されている人が少ないため、利用したいが利用できないという課題がよくある。現状はどうなっているのか。

（担当課）3月末時点全体で1,145人登録されているが、依頼する側の会員は892人で援助する側の会員は 209 人、両方の方は44人と、バランス的には頼みたいが頼めないとなることが多くなっている。

（委　員）制度として難しいところではあると思うがそういった部分も評価できて、なおかつ市全体としてなんらかのフォローアップができればと思う。

「生涯学習施設全体のあり方・大規模改修等検討事業」について

（委　員）KPI が設定されていない理由はあるか。

（担当課）調査業務が昨年度に始まり、今年度の9月まで続くという中で、事業評価シートを作成した段階では中間報告も出ておらず KPI を設定することが難しかった。

（委　員）KPI という基準がない中で総合評価を C 評価とされているが、例えば現地調査の進捗であったり、調査した施設の数だったり中間報告が出る前でも何らかの目標は立てられたのではないか。

（担当課）令和7年度中にすべての施設の現地調査に向かい、今年度にはいくつかの施設について再度重点的に調査を行う。また現地の設備などについて現地職員に確認を行うという報告はあるので、その内容でいえばご指摘いただいたように KPI は定められたかと思う。

（委　員）調査を行う前に指定管理者に状況の聞き取りなどはせず、まず調査を行うという形で進めているのか。

（担当課）各施設老朽化が進んでおり、一部指定管理者の修繕対応では間に合わない状況のものが出てきている。そういったものについては指定管理者と協議したうえで予算の計上はしている。しかし予防保全できるものと突発的に起こるものが多岐にわたるので、今回一斉に調査をしたうえで今後考えていかないといけない状況。

（委　員）多様な主体との協創やデジタル・データの活用といった部分の評価がされていないが、例えば施設の利用状況や意見などはどのような形で収集され、反映されているのか。
（担当課）利用状況や要望については指定管理者側で年に1回施設利用者に向けてアンケートを行っており、その結果については年度末の報告書に記載している。
（委　員）施設の管理は管理者が確認することに加えて、利用者が気づいたことを伝える、その意見を改善に活かすという部分で様々な主体との協創というものに繋がるのではないか。また、そのアンケートをデータで行っているのであればデジタルの活用にもなる。

「総合公園体育施設リニューアル事業」について
（委　員）この事業も KPI が定められておらず、多様な主体との協創、デジタル・データの活用も評価されていない。何らかの評価をしていただきたい。
（担当課）評価させていただく。
（委　員）昨年度予算と決算で金額が大きく異なっている理由は。
（担当課）測量業務が行えず、令和8年度に繰越をしている。
（委　員）令和7年度に補正で入れた理由は。
（担当課）当初は令和8年度予算で想定していたが、スケジュールの都合上間に合わなくなるため令和7年度の補正を組んだ。
（委　員）多様な主体との協創の部分が評価できないと書いているが、利用者の声を反映させるなどが評価に含まれるのでは。
（担当課）今後は記載をする。
（委　員）コスト意識の評価が D 評価とされているが、予算と変わらない金額で契約できたという点でそこまで低く評価しなくてもいいように思う。

「病児保育の充実事業」について
（委　員）KPI の目標値は達成しているのに総合評価が E 評価なのはなぜか。不十分であるなら KPI の設定が適切でないのではないか。
（担当課）KPI とは別に、事業の拡充に繋げるという目標を立てており、そこまで到達できなかったということで不十分という評価にした。KPI に照らして評価を行うという観点でいえば評価をもう一度見直すべきかもしれない。
（委　員）拡大を図るという事業の目的にするのであれば、KPI の目標値を前年度比に設定するなどの方法はあるので検討していただきたい。
（担当課）KPI を軸として評価の方を変更する。
（委　員）事業の対象数が10で、KPI の目標値が8とされている理由は。
（担当課）事業の対象数には KPI の指標としている体調不良時対応型以外の種類の病児保

育も含まれている。その中の体調不良児型の施設を8施設にすることを目標としていた。

（委　員）元の体調不良時対応型の施設はいくつあったのか。

（担当課）元から8施設あり、KPI としては現状の8施設を維持するという目標であった。

（委　員）それでは事業概要が拡大ではなく維持の方が適切ではないか。

（担当課）事業概要を令和7年度に設定している KPI の数値のひとつ上の目標として記載したため、KPI の基準と差異が生じた。KPI を基準にすると評価が低すぎるため改める。また、事業概要についても記載内容を検討する。

（委　員）体調不良時対応型の保育の現状ニーズは満たされている状態であるのか。そうではないため拡大を図っているのか。

（担当課）計画の中の見込み量については現状確保できている。

「保育料の段階的な無償化事業」について

（委　員）0歳児から2歳児までの無償化について、第一子の無償化は実施されているのか。

（担当課）第二子以降の無償化のみで第一子については無償化されていない。

（委　員）国・県に要望と書かれているが、市単独で行った場合はどれくらいの予算がかかるのか。

（担当課）正確に試算はしていないが、第二子以降の無償化で約1億5,000万円の費用がかかっている。少なくともそれを上回る数字になるのでは。

（委　員）段階的な無償化というところで、例えば 1/3 を補助するなどの段階もあるが、そのような検討はしていないのか。

（担当課）現状第二子の無償化についても県から補助を受けておらず、市単独で行っている。まずはその部分を県から補助をもらえないか交渉をしている段階のため、さらに市単独で補助を増やすことは難しい。

（委　員）デジタル・データ活用の評価がされていないが分析などをされていることについて評価できたのではないか。

（担当課）活用しているという認識ではなかったので評価を行っていなかったが、書くべきというご助言をいただければ訂正して評価させていただく。

「各事業の総合評価についての最終確認」

（部会長）それでは1事業ずつ各事業の総合評価について最終確認をしていく。まずは「障がい者が安心して過ごせる居場所の確保・充実事業」について。総合評価が C 評価でいいのかという意見があったがどうか。

（事務局）担当課は令和7年度の予算を作る段階では計画を立てて予算もとっていたが、人手や需要の問題もあり事業を進められなかった。この事業は市単独で行うものではなく事業者と協働で行う事業。成果は上がらなかったが今後も協議を行い検討

するという部分で C 評価をつけているのでは。

（委　員）現状需要が把握しきれていないとされている事業を立てておく必要があるのか疑問。予算0の事業でも人員は割り振られている。需要が確認されたときに行う休止事業のようなものとして置いておくか検討すべき。

（部会長）コメントとしてはこのような内容で、総合評価については事業が進められていないので評価なしとしてよいか。

（各委員）承諾。

（部会長）続いて「ファミリー・サポート利用助成事業と人員体制の強化事業」について。これについては C 評価とされているがどうか。

（委　員）KPI を見る限りは B でもいいのでは。

（委　員）実績は順調に上がっているが、特定の方に利用が偏っていても同じ実績値となるのは市の事業としては良くない。

（部会長）総合評価としては C 評価でよろしいか。

（各委員）承諾。

（部会長）続いて「生涯学習施設全体のあり方・大規模改修等検討事業」について。これは評価すべき段階なのか難しいがどうか。

（委　員）予定通りの成果は得られているのであれば B 評価だと思うがどうか。

（各委員）承諾。

（委　員）コメントとして KPI を設定し、運用していくようお願いしたい。

（部会長）続いて「総合公園体育施設リニューアル事業」についてはどうか。

（委　員）予定通り行われているという部分で B 評価でもいいのでは。

（委　員）先ほどと同様に KPI の設定がされていない点や、多様な主体との協創についてなどの評価がされていない点など、留意すべき点はある。

（部会長）事業全体の進捗としては大きな問題はないが、評価のとらえ方に留意していただきたい。以上の評価でよろしいか。

（各委員）承諾。

（部会長）続いて、「病児保育の充実事業」についてはどうか。

（委　員）総合評価が E 評価である点。適切な指標が設定されているのか検討していただきたい。

（委　員）需要は満たしていると言っていたが、拡大を目指すのか。

（事務局）例えばインフルエンザやノロウイルスといった突発的に需要が増えると溢れてしまう。平常時であれば必要ないところをどの程度確保すべきか検討する必要がある。

（委　員）総合評価の理由に部屋の確保ができなかったとあるが、新たな部分ができず、現状の 8 園はできているという認識で間違いないか。

（事務局）補足をすると、先ほどのファミリー・サポート事業も病児保育事業も、子ども・子育て支援事業計画において見込み量を算定して、それを満たすための目標値を設定

している。市としての目標値ではなく、将来の需要を満たすための最低値である。だからサービスを拡充するためにアクションプラン上の計画では拡大を目指すという書き方になっている。

（部会長）評価としては C 評価ということでよろしいか。

（各委員）承諾。

（部会長）コメントとしては事業の概要や目的、KPI の設定などを含めて事業目的と評価に齟齬が生じないように検討していただくというところでよろしいか。

（各委員）承諾。

（部会長）最後に「保育料の段階的な無償化事業」について。単年度としての評価は難しいが現状は維持しているというところでどうか。

（委　員）担当課としてではなく市としての姿勢。より経済的な支援を進めて子どもを産み育てやすい環境を整えていくという姿勢であればやはり第一子についても段階的な無償化の可能性を検討すべき。市としてどのような姿勢で臨むかを考えていただきたい。

（委　員）国・県に要望しても第二子の補助を受けていない現時点で第一子の補助を受けられるわけがないので、生駒市として新たな財政負担をしてでも第一子から補助をするという姿勢で進めるのか検討すべき。完全無償化は難しくとも段階的に。

（部会長）総合評価としては C 評価でよろしいか。

（各委員）承諾。

（事務局）第3回生駒市行政改革推進委員会全体会については当部会で評価した令和7年度取組状況評価の答申案を審議いただく予定をしている。開催日程は後日調整する。

3　閉会